

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭63-78265

⑬ Int. Cl. 4
G 01 N 27/46
27/58識別記号 庁内整理番号
J - 7363-2G
B - 7363-2G⑭ 公開 昭和63年(1988)5月24日
審査請求 未請求 (全3頁)

⑮ 考案の名称 酸素濃度検出器

⑯ 実 願 昭61-171795
⑰ 出 願 昭61(1986)11月8日

⑱ 考案者 三重野 敏幸 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

⑲ 考案者 中島 豊平 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

⑳ 出願人 本田技研工業株式会社 東京都港区南青山2丁目1番1号

㉑ 代理人 弁理士 藤村 元彦

㉒ 実用新案登録請求の範囲

各々が酸素イオン伝導性固体電解質部材を一对の電極によって挟んでなるポンプ要素及び電池要素を拡散制限手段を介して並設して形成した酸素濃度検出素子と、前記酸素濃度検出素子を囲繞した保護部材とを有し、前記保護部材は通気孔を周側面のみに有する内側保護管と、通気孔を有し前記内側保護管を所定の間隙を隔てて囲繞する外側保護管とから成り、前記外側保護管の外側表面の単位面積当たりに占める前記外側保護管の通気孔の開口面積は該通気孔から前記拡散制限手段への気流経路が長くなるに従い大きくなっていることを特徴とする酸素濃度検出器。

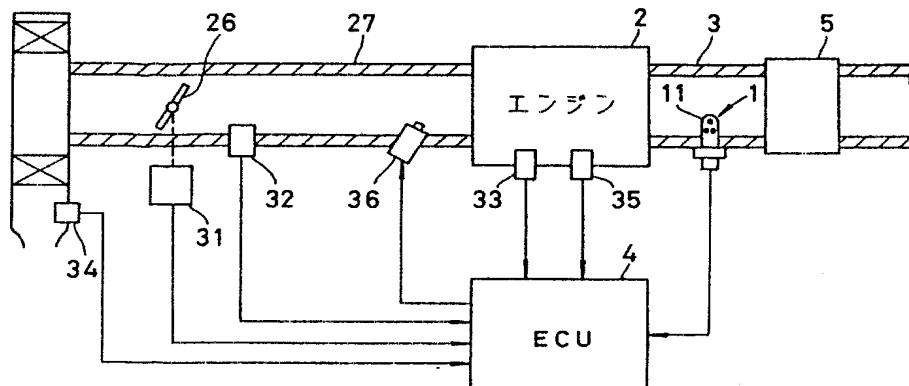
図面の簡単な説明

第1図は本考案による酸素濃度検出器を用いた

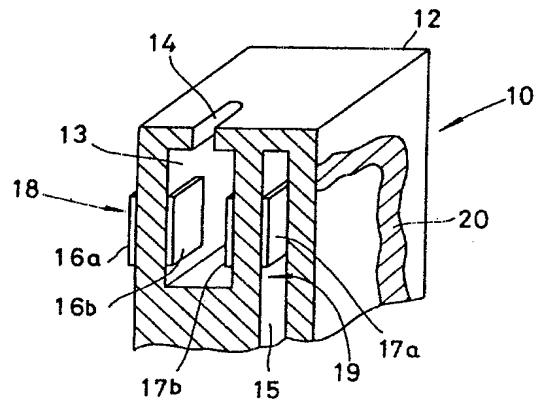
内燃機関の電子制御燃料噴射装置を示した図、第2図は酸素濃度検出素子を示した図、第3図はECU内の回路を示す回路図、第4図ないし第6図は本考案による酸素濃度検出器を示した断面図である。

主要部分の符号の説明、1……本考案による酸素濃度検出器、10……酸素濃度検出素子、11……保護部材、12……酸素イオン伝導性固体電解質部材、13……気体滞留室、16a, 16b, 17a, 17b……電極、18……ポンプ要素、19……電池要素、61……内側保護管、62……外側保護管、62a……通気孔。

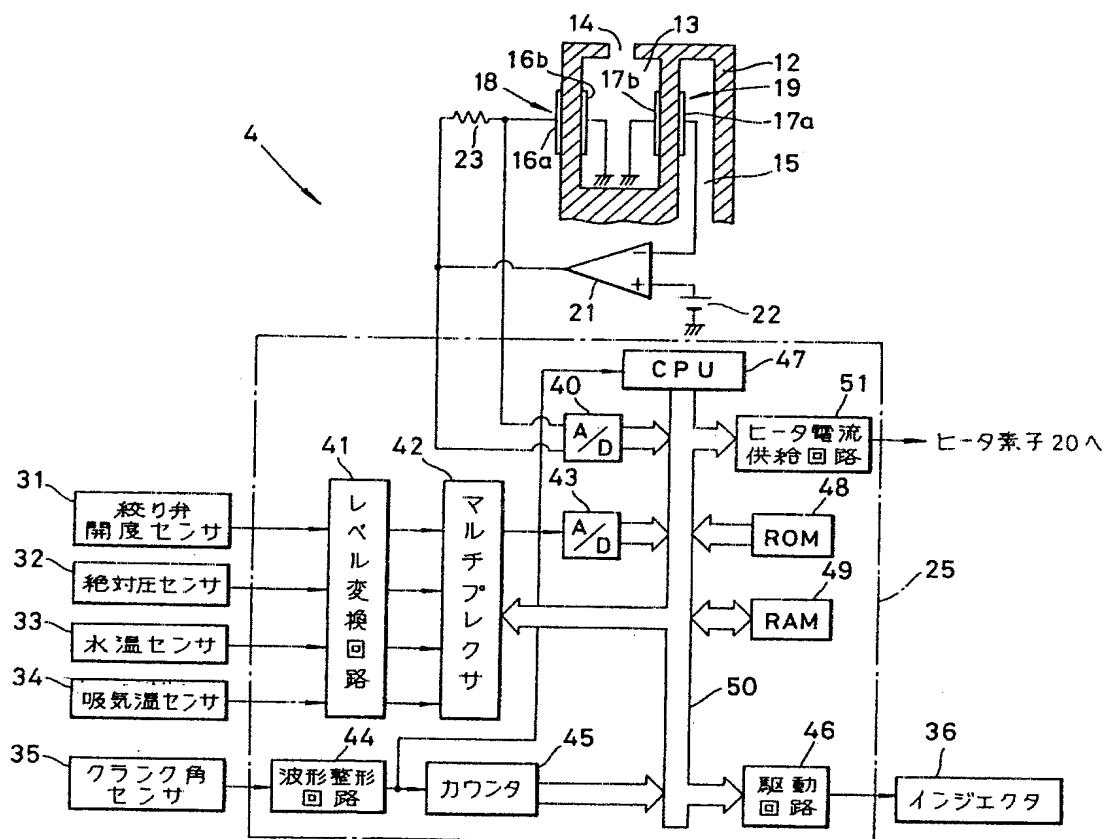
第1図



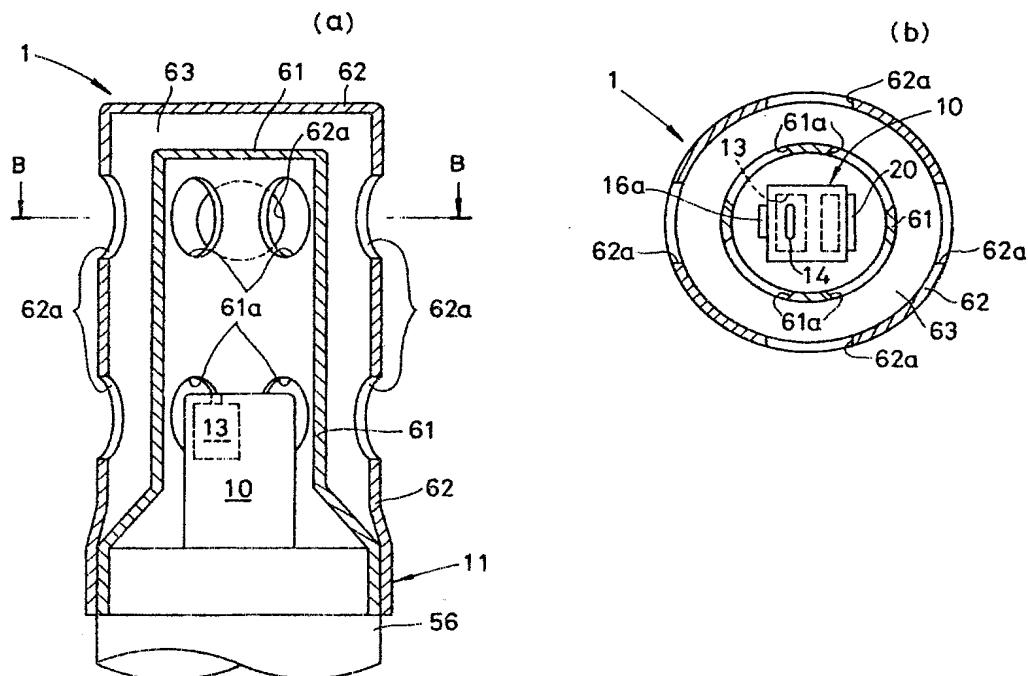
第2図



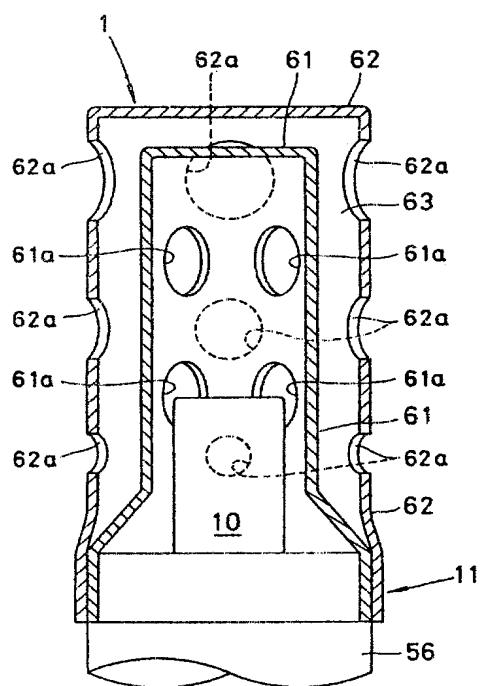
第3図



第4図



第5図



第6図

